

令和5年 謹賀新年

ふる里復興・創生 「草創の年」



広野町長
遠藤 智

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。年頭に当たり町民の皆様には、今年一年のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。平素から町政全般にわたり深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった年であり、未だ終息の兆しが見えない状況にあります。コロナ禍により中止となっていた「広野町サマーフェスティバル2022」や「広野スタイル2022」、「第25回

ひろの童謡まつり」の開催により、たくさん笑顔、喜びに包まれました。「ひろの童謡まつり」では、童謡によるまちづくりの先駆者である兵庫県たつの市と「日本一の童謡の里づくりのまち」を目指す共同声明を発表し、広野町とたつの市で生まれた童謡を歌い継ぐことで、童謡文化のより一層の振興を進めてまいります。さらに、先人が築き上げた歴史、伝統、文化を継承し、童謡が生まれた美しい里山、田園を渡る風、清らかな水を未来に繋ぐため、環境基本条例を制定しました。気候変動などの地球規模の環境破壊を引き起こさないための原動力にもなるという認識に立って、半世紀の歴史に及ぶ広野火力発電所と昨年運転が開始された広野IGCCとの未来に向けての共生を展望した脱カーボン掲げ、童謡をはじめとする地域のアイデンティティを掘り起こすことで移住・定住を促進し、未来創造に取り組んでまいります。

町の歴史・文化の継承、世代、地域を超えて相互交流が生まれる拠点、新しい文化活動の場となる広野町文化交流施設「ひろの未来館」が4月に開館しました。広く地域の皆様が歴史・伝統・文化に触れる機会並びに子どもたちが自主的に学習する環境を整備し、文化財等を活用した体験学習、ワークショップ等を開催することで、町の歴史・

文化を通じた交流から、歴史・文化を発信する「文化の薫り高いまちづくり」の拠点となります。ひろの未来館が地元のふたば未来学園、小高技術産業高校、福島高専、東日本国際大学、東京大学、早稲田大学などの学術研究機関との連携、ご支援を賜りながら広く「復興を支える若人」が廃炉事業の完結へ福島イノベーションコースト構想による新エネルギー産業の創出に向けた復興人材育成の拠点となるよう取り組んでまいります。

町の玄関口にあたる広野駅に隣接する「未来のかけ橋」・「広野駅構内」にエレベーターが完成し、今後実施を予定している広野駅の改修事業などにより、広野駅を中心とする地域のバリアフリー化が図られ、利用しやすい環境が整いつつあります。広野駅東側地区においては、若者世代向けの魅力ある住宅団地開発事業に取り組むなど、広野駅周辺の整備が着実に進んでおります。

私は、これまで取り組んできた町の復興・再生を、新しい広野町の「創生」へと進化させ、ふる里広野町の歴史、伝統、文化に対する誇りを胸に、本年を「ふる里復興・創生「草創の年」」と位置付け、生活再建を念頭とした医療福祉、JFAアカデミー福島との連携や子ども議会の開催などの充実した教育、廃炉事業をはじめとした地域経済の更なる発展を図り、移住・定住を念頭とした新たな時代の防災に強い、安心・安全な共生のまちづくり、福島国際研究教育機構と連動した復興人材育成など、町民の皆様とともに新たな未来創造を展望してまいります。

広野町の復興・再生は、国内、国際社会より多くの温かいご支援、ご厚情を賜り、着実に復興の歩みを進めてまいります。私たちは、震災から第二期復興創生期間を迎え、福島復興に向けて、国をはじめとする関係機関と強固な結束、相互連携を図り、これまでご支援を賜りました皆様へ感謝の念を持ち、福島復興を成し遂げる決意を持って取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を願うとともに、本年が、皆様と共に明るい夢と希望に満ちた幸せな年となるよう、心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

令和5年1月1日